



彩の国さいたま

<管内関係機関・認定農業者等向け情報誌>

# 加須農林振興センターだより

発行 埼玉県加須農林振興センター 加須市不動岡 564-1

TEL : 0480-62-4771 FAX : 0480-62-1499

e-mail : g624771@pref.saitama.lg.jp

http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0907/



埼玉県のマスコット  
「コバトン」、「さいたまっち」

## 北埼玉スマート農業研究会が埼玉農業大賞優秀賞受賞！

埼玉農業大賞は、革新的な農業経営に取り組む方や地域農業の振興に貢献された方々の功績を称え、広く発信することで埼玉農業の更なる発展を目指すものです。

このたび、北埼玉スマート農業研究会（会長新井健一氏、構成員80人）が地域貢献部門で優秀賞を受賞され、令和4年11月15日に知事公館で表彰式が行われました。

国内でも数少ない農業者によるRTK基地局の整備や各種実演会、研修会の開催等により、地域全体でスマート農業技術の導入を推進し、大規模主穀作農家の更なる規模拡大と経営安定による地域農業の発展に貢献していることが高く評価されました。

今年度も研究会員の自動操舵システムの共同導入（17台）やロボットトラクタが導入されており、その導入効果の情報共有による更なる面的拡大が期待されます。

【お問合せ】 農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911



表彰式の様子（大野知事とともに）

## 多面的組織「美田ムジナもんクラブ」(羽生市)を表彰！

埼玉県多面的機能支援推進会議では、多面的機能支払交付金を活用している県内多数の活動組織のうち、優れた活動を行っている組織を毎年表彰しています。

令和4年度、加須農林振興センター管内では「美田ムジナもんクラブ」（羽生市）が優良事例組織に選ばれ、11月7日、当センターで開催された表彰式にて表彰状が授与されました。

「美田ムジナもんクラブ」では自治会や土地改良区、PTAなど農家・非農家を問わず様々な団体が参加し、地域ぐるみで農地の維持管理活動に取り組んでいます。また、植栽活動や近隣の学校と連携した農業体験を実施するなど、地域に根ざした活動が評価されました。

当センターでは、管内65の組織（令和4年度）が活動を継続できるよう支援するとともに、制度の更なる推進を図ってまいります。



表彰式



農業体験の様子

【お問合せ】 農村整備部 整備支援・管理担当 TEL0480-62-4578

## 「麦」「大豆」の種を生産する採種組合員が新たに加わりました！

管内は、米・麦・大豆種子の県内最大級産地です。令和4年度は、水稻「彩のかがやき」49ha、二条大麦（ビール麦）「彩の星」11.3ha、小麦「あやひかり」12.1ha、大豆「里のほほえみ」が1ha栽培されました。生産された種子は、県内で翌年に栽培される水稻、麦類、大豆の種子として農協等により配布されます。水稻種子を生産している組合は「行田米麦採種組合・6人」（行田市）、「高柳採種組合・3人」（加須市）、「下崎採種組合・5人」（加須市）、「種足採種組合・8人」（加須市）、「羽生市須影採種組合・4人」（羽生市）の5組合です。麦種子は2種類生産されており、二条大麦を「行田米麦採種組合・須影支部2人」と「下崎採種組合」の2組合、小麦は「高柳採種組合」の他、令和3年播きから「行田米麦採種組合・南河原支部4人」が新たに加わりました。大豆は令和4年産から「(株)とりうみファーム」（加須市）が1haの種子生産を始めました。種子生産は手間のかかる作業ですが、採種組合の方々には「採種技術向上研修会」や「現地検討会」に参加し、種子生産に適した栽培や調製管理等の技術を高めて、収量確保と品質向上に取り組んでいます。

県内の農家の方々に良質の種子を提供出来るよう、当センターではこれからも採種組合をバックアップしていきます。



大豆種子生産ほ場（ほ場審査の様子）

【お問合せ】 農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911

## 施設きゅうり栽培では「天敵」が活躍しています！

管内主要農産物の1つ「きゅうり」は、県産ブランド「菜色美人」として市場出荷されています。近年「キュウリ退緑黄化病」、「キュウリ黄化えそ病」の媒介虫であるコナジラミ類やアザミウマ類の農薬に対する薬剤抵抗性が高まり、防除が難しくなっています。そこで、当センターでは耕種的防除として天敵（スワルスキーカブリダニ等）の導入を推進しています。これまで加須市では7経営体が「天敵」を導入しました。アンケート調査では、「通常の防除体系と同等の効果が得られた」との評価が得られました。「天敵」は対象となる害虫を捕食してくれますが、天敵に害のある農薬を使うことができないなど天敵に適した管理が必要で、栽培中の観察と臨機応変な管理が必要です。一方、害虫が抵抗性を持つことは無いので、持続的な防除が可能です。また、防除効果の高い農薬を連用せずに済むので抵抗性が高まらず、ここぞという時のために特効薬としてとって置くことができます。

当センターでは「天敵」の活用を積極的に支援していきます。

【お問合せ】 農業支援部 技術普及担当

TEL0480-61-3911



「天敵」の放飼

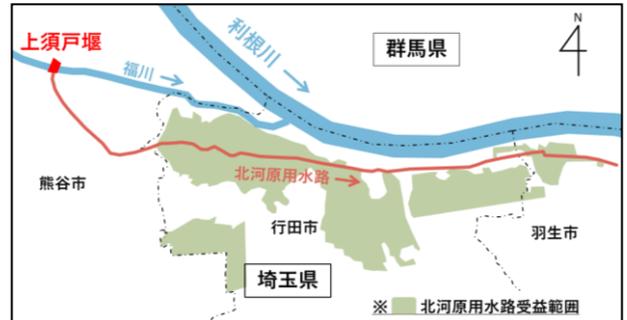
## 上須戸堰(北河原用水路取水堰)の改修を実施しています

堰(せき)は河川などに設置される構造物で、河川をせき止めることにより水位を上昇させ、水位の差を利用して下流の田畑に水を届ける役割を果たします。

上須戸堰(熊谷市上須戸)は、一級河川福川に設置された農業用の堰で、昭和46年の造成から50年以上が経過し、経年劣化により堰が正常に動作しない状況となっています。

そこで、令和4年度から令和6年度までの計画で、「県営農業用河川工作物応急対策事業」により堰の改修を実施しています。

令和5年度に工場で新たな堰を製作し、令和6年度に河川へ設置する予定です。



上須戸堰全景



堰の動作状況

【お問合せ】 農村整備部 県営事業担当 TEL0480-62-4582

## 県営ほ場整備事業 名倉地区の完了について

加須市の南西部(旧騎西町)に位置する名倉地区は、南側は上青毛南堀排水路に、東側は県道礼羽・騎西線に接した約50haの平坦な水田地帯です。

本地区は、農地の区画が小さく、農道も狭いことから、大型の農業機械の使用が困難で、資材や農作物の運搬にも支障をきたすなど、多くの問題を抱えていました。

このため、換地をしない埼玉型ほ場整備事業で、畦畔除去による区画の拡大、寄附採納や買収による農道の拡幅整備、老朽化した水路の整備を行いました。

事業は、平成30年から始まり令和4年5月に完了しました。まとまりのある形で農地を利用できるようになった本地区では、農地中間管理事業を導入し、地域の担い手農家への農地集積が進んだ事により、農作業に係る費用の削減や耕作放棄地の減少が図られています。

【お問合せ】 農村整備部 県営事業担当 TEL0480-62-4582

整備前



整備後



## 注目の埼玉県育成いちご品種「べにたま」と「あまりん」

JAほくさい北川辺いちご部では、埼玉県育成いちご品種である「べにたま」、「あまりん」の栽培に取り組んでいます。「べにたま」は11月下旬頃から、県内の量販店へ向け、限定的に市場出荷が開始されています。「べにたま」は大粒で糖度が高く、さわやかな酸味があるため良食味、さらには果皮が傷みにくく輸送性が高いことから、市場出荷に向いています。令和3年から市場出荷が始まったばかりのため、生産量はまだ少ないですが、埼玉県独自の品種として定着が期待されています。「あまりん」は、12月上旬頃から県内市場を中心に出荷されており、その際立つ濃厚な甘みが人気を博し、各種メディアで注目されている品種となりました。生産量も大幅に増えており、県内に定着してきている品種です。

近年は、多種多様ないちごの新品種が、全国各地から発表されています。“いちごの戦国時代”と比喻されるこの時代を勝ち抜くために、生産者は高品質ないちごを日々栽培しています。県内の量販店で埼玉県産いちごを見かけた際は、ぜひ手に取ってご賞味ください！

※「べにたま」は栽培が始まったばかりで戦略的に市場出荷を行っており、まだ直売所や庭先での販売はされておりません。県内量販店でお買い求めください。



出荷された北川辺産  
「べにたま」と「あまりん」

【お問合せ】農業支援部 技術普及担当 TEL0480-61-3911

## 施設園芸の労働負担軽減を支援しています

～先端サポート技術導入事業を活用したUV-B電球の導入～

埼玉県では、施設園芸の労働負担を軽減し、働き方改革に必要な技術を確認して普及させることを目的に、「施設園芸先端サポート技術導入事業」を実施し、必要な機械・施設の整備を支援しています。今年度は、加須市の北川辺いちご部の生産者6名が本事業を活用し、「UV-B電球型蛍光灯」を導入しました。

「UV-B電球型蛍光灯」で紫外線（UV-B）を照射することにより、いちごに発生するうどんこ病といった植物病害に対する防除効果があり、農薬の散布回数削減が期待されます。

既に、ハウス内の設置が完了しており、実際に導入した生産者からは、「うどんこ病が減った。農薬の散布回数が減って作業が楽になった。」との話があり、防除効果や生産者の労働負担軽減につながりました。

【お問合せ】管理部 地域支援担当 TEL0480-61-3404



ハウス内のUV-B電球の設置状況



UV-B電球本体